

自分への投資

校長 館岡 靖哲

私の幼少期、自宅の近所に共同の井戸がありました。井戸の周りには近隣の方々が集まり、よく話をしていました。いわゆる井戸端会議です。昔は一般的な光景でした。その井戸で水を汲み上げるために使われた桶を縄の先にとりつけた道具を釣瓶（つるべ）と呼びます。この釣瓶が、井戸の中に素早く落ちる様子を秋の日暮れに例えて「秋の日は釣瓶落とし」と言われています。この表現の通り、日没の早さを感じる季節となりました。9月24日（水）の陸上競技を皮切りに新人体育大会が始まりました。2学年中心の新チームとなつての初めての公式戦です。日頃の練習の成果を活かし、悔いの残らない試合を行ってくれることを期待します。

さて、これも私の思い出話です。私が30代前半の頃、同じ教科で色々ご指導をいただいていた、中学校勤務の校長先生から「館岡先生、あなたは教員としての自分に、どれくらい（どのような）投資をしていますか」と質問されたことがあります。私は自分への投資と言われて、回答に困った記憶があります。その際に、次のような助言を受けたことを鮮明に覚えています。

「最近の教員は本を読まなくなった。教員にとって読書は最大の自己投資である。読書は、単なる趣味ではなく、非常に価値のある活動だ。本を読むことで得られる知識や視野の広がり、教員としての成長にも大きく貢献するのだ」

当時はインターネットもさほど普及していない時代です。教員が様々な情報を得るためにも読書は重要だと分かってはいました。しかし、飲食や趣味には惜しみなくお金を使っていたが、書籍の購入は……。この助言以降、可能な限り図書館や書店に出向き、日常生活でも読書の時間をつくり、自分への投資を心掛けました。実は今でも読書の時間を大切にしています。

ところで、ある情報誌（小中学生の保護者向け）に読書の効果についての記載がありました。

- ① 読書では、上手な言い回しや普段自分が使わないような文章に触れることができるため、自然に文章能力が上がります。また、同時に言葉の表現が豊かになるため、相手との会話のキャッチボールで自分が伝えたい内容をしっかり伝えることが可能になります。
- ② 読書で出会った言葉により、ボキャブラリーが増えていきます。
- ③ 読書により、知りたかったこと以外の知識も増え、興味が広がる可能性があります。
- ④ 自分だったら考えられないアイデアや想像が本の中には詰まっており、生活や人生の中で大きなヒントになる可能性があります。
- ⑤ 読書をすることで得た多様な知識は、友人との会話の話題の1つとして取りあげることができるようになります。
- ⑥ 文章や単語から本の情景や背景、登場人物の感情や思考を想像することで、想像力が豊かになります。その経験が、相手のことを考えて寄り添い、共感することにつながり、良好な人間関係を構築することに繋がります。
- ⑦ 読書にはストレス解消の効果もあり、大きなリフレッシュ効果が期待できます。

令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜（現2学年）から、入試に面接が加わります。受検生はこれまでの体験を振り返り、力を注いだことや努力をしたこと、将来取り組んでみたいこと等を、自分の言葉で具体的に表現することが求められます。ここで求められる思考力や判断力、表現力等はすぐに身に付くものではありません。良い機会です。生徒の皆さん、自宅でもパソコンやスマホを脇に置いて、読書の時間を増やしてみませんか。自分への投資です。

◎生徒の学校での活動や校内の風景等をホームページに掲載しております。本校ホームページ→学校生活→東中NOWをご覧ください。